JASE
現代性教育研究ジャーナル
2012年
No. 15
2012年6月15日（毎月15日）発行
日本性教育協会
THE JAPANESE ASSOCIATION FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info_jase@faje.or.jp URL http://www.jase.faje.or.jp 発行人 鈴木 勲 編集人 本橋道昭
© JASE. 2012 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

欧州におけるセクシュアリティ教育充実への取組み … 1
北丸雄二のニューヨークリポート⑮ … 8
「ありのままのわたしを生きる」ために⑮ … 9
今月のブックガイド … 10
JASEインフォメーション … 11

欧州におけるセクシュアリティ教育充実への取組み

姫路獨協大学医療保健学部こども保健学科　森脇　裕美子

はじめに

学校におけるセクシュアリティ教育の充実は、欧州諸国においても重要な課題となっている。

WHO Regional Office for Europe（WHO欧州地区事務所：WHO/EUR）には53カ国が所属しており、その多くの国で何らかのセクシュアリティ教育が実施されている。しかし、その現状は政治や経済、宗教、民族などの社会文化的要因を背景に各国各様である。[1)2)]

一方で、各国が人々、特に青少年の性的健康に関して抱える課題は、国により状況は異なるものの、HIVを含む性感染症、望まない妊娠・若年妊娠、人工妊娠中絶、性的虐待や性暴力などの健康問題の継続や増加である。[1)3)~7)] これらの健康問題には、グローバル化や移民の増加、インターネットや携帯電話など新しいICTの急速な拡大、メディアや広告のセクシュアル化などの社会状況の影響が指摘されている。

現在、欧州にはこれらの新しいニーズに呼応し、各国の相違を踏まえたうえで相互に連携、協力し、青少年に対する、特に学校におけるセクシュアリティ教育を充実しようとする動きがある。[2)3)8)]

2010年秋、WHO/EURとドイツのFederal Centre for Health Education（BZgA）は、共同して「欧州におけるセクシュアリティ教育のための標準政策決定者、教育及び健康関係当局及び専門家のための枠組み」（以下、ヨーロッパ標準とする）を発行した。[3)] この標準は、欧州地域あるいはEUレベルでの推奨標準が必要とされたことから、様々な学域的背景を持ち、国の機関や研究機関、NGO等で活躍しているセクシュアリティ教育の専門家9か国19人の協力を得て開発された。

ヨーロッパ標準の発行は、大きく次の2つをねらいとしている。

①欧州における青少年に対するセクシュアリティ教育の「ギャップを埋める」ための第一歩

②総体的セクシュアリティ教育（Holistic sexuality education：HSE）の導入

ヨーロッパ標準の特徴は、この「総体的セクシュアリティ教育」（以下、HSE とする）という名称に表される。HSE は人間の潜在的な領域であるセクシュアリティを幅広く捉え、そのすべての側面に関して、子どもたちと若者に年齢（発達）段階に応じて偏見のない、科学的に正確な情報を与えると同時に、それらの情報に基づいて行動するスキルの形成を助ける。さらには、もっと一般的な教育の一部として子どもたちの人格の発達にも影響し、生活の質や健康、well-being の向上にも貢献するとされている。

そこで、このヨーロッパ標準に、現在、欧州が充実を図ろうとしている青少年に対するセクシュアリティ教育について、その内容を具体的にみてみる。

ヨーロッパ標準の発行の周辺状況

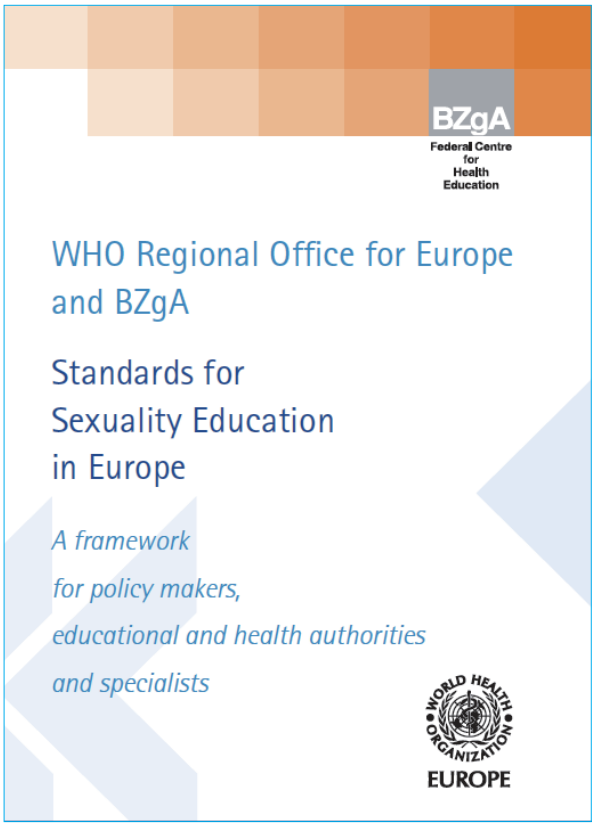
欧州の学校におけるセクシュアリティ教育は、1955 年にスウェーデンで最も早く義務化され、以来[2)9)]、1970 年代の「性の革命」や 1980 年代の HIV/AIDS の出現と拡大、1990 年代の共産主義の崩壊などを受け、現在までに多くの国で導入されてきている[1)~3)]。

しかし、セクシュアリティ教育の概念は国によって異なり、名称も sex/sexual/sexuality education、sex and relationship、health education、education for family life など様々である。また、西欧諸国の約３分の２には全国的な指導書やミニマム・スタンダードがあるが、そのような指導がない国も多い。

内容的にも、セクシュアリティを幅広く捉える場合から、生物学的な内容に限られる場合まで多様である[1)~3)]。

そのようななか、2001 年に「性と生殖の健康に関する WHO 欧州地区の戦略」（WHO/EUR）が出版された[10)]。その 2000 年からの 10 年間の戦略の最終目的のひとつは、西欧対中・東欧の「性と生殖の健康」（sexual and reproductive health：SRH）の状況の大きなギャップを縮小するため欧州の結束を生む努力を支援することである。

また、その具体的な目的のうち青少年の SRH に関する領域の第 1 に、「セクシュアリティと生殖のあらゆる側面について情報を与え教育すること、そして満足でき責任ある方法でこれらの事柄に対処するために必要なライフスキルの発達を助けること」が掲げられた。



2006 年、BZgA と WHO/EUR によって「多文化な欧州における若者のための性教育」についての会議[11)]が、26 か国から 100 名以上の専門家の参加を得て開催された。その結果、提案のひとつに欧州における性教育の標準化された指標を開発することが挙げられ、セクシュアリティ教育の啓発やプログラムの開発と向上のための資料として、ヨーロッパ標準が開発された[3)]。

同時期、国際家族計画連盟ユーロピアン・ネットワーク（International Planned Parenthood Federation European Network：IPPF/EN）」、WHO/EUR 及びスウェーデンの Lund University が共同で推進するプロジェクト「The SAFE Project（Sexual Awareness for Europe）」（2004～2007）がスタートし、2006 年に最初の指導書「欧州におけるセクシュアリティ教育に関する方針と実践のための参考指導書」が出版された[2)]。さらに、2007 年に「欧州の若者の性と生殖の健康と権利に関する方針開発のための指導書」が発行された[8)]。その中に掲げられた勧告のひとつは「包括的セクシュアリティ教育を初等・中等教育学校の両方で、ミニマム・スタンダードと教育目標を明確にした必修科目と

すること」で、ヨーロッパ標準は図らずもこの勧告にも応えるものであるとされている。なお、プロジェクトは現在、The SAFE Project Ⅱ（2009～2012）が進行中である。

ヨーロッパ標準の構成と内容[3)]

次に、ヨーロッパ標準についてみる。ヨーロッパ標準の構成は、表１の通りである。

ヨーロッパ標準では、冒頭の開発の背景と目的に続いて、性、セクシュアリティ、性的健康、性的権利、セクシュアリティ教育についての定義と概念を示し、共通理解を図っている。用語の定義と概念は、WHOが国際的な議論の上で示している暫定的定義を基本的に採用し、特に重視する性的権利については国際人権や子どもの権利条約なども踏まえて説明をしている。

セクシュアリティ教育については、「セクシュアリティの認知的、情緒的、社会的、相互作用的、身体的な側面についての学習を意味」し、「子ども期早期に開始し、青少年期、成人期へと展開し、特に子どもと若者にとっては性的発達を支援し、保護することをねらいとする」。「子どもたちが自己のセクシュアリティを理解して楽しみ、安全で満足できる人間関係を持ち、自己と他者の性的健康と well-being に責任を持つために情報、スキル、肯定的な価値観を獲得」させ、「それにより彼等が生活の質（QOL）を強化する選択をし、慈悲深く公正な社会に貢献することを可能にするもの」であり、「すべての子どもたちは年齢に応じたセクシュアリティ教育を受ける権利を持つ」と説明されている。

そして、その実施にあたっては、質的な強化のために組織的に若者を参加させること、相互作用的な方法で、継続的、教科・領域横断的に実施すること、対象のニーズに注目して方向付けること、保護者とコミュニティと緊密に協力して支援的環境を構築すること、ジェンダーに慎重であることが要求されるとしている。

Part ２のマトリクスは、乳幼児期から青少年期のそれぞれの年齢（発達）段階で学ぶべき情報・知識、スキル、態度を８つのテーマごとに表したものである。年齢段階は０～４歳、４～６歳、６～９歳、９～12 歳、12～15 歳、15 歳以上の６段階に区分されている。ここでは、次ページ（図）に 12 ～ 15 歳の例を示す。テーマは、「人間の身体と人間発達」「受精と生殖」「セクシュアリティ」「情緒」「人間関係とライフスタイル」「セクシュアリティ、健康、well-being」「セクシュアリティと権利」「セクシュアリティの社会的、文化的決定要因（価値観／規範）」の８つである。発達段階に応じて幅広くトピックを取り上げている。

表１　ヨーロッパ標準の構成

序言
Part １：導入
１．背景と目的
　1.1 公式と非公式のセクシュアリティ教育
　1.2 学校におけるセクシュアリティ教育の内容の変遷
　1.3 ヨーロッパの学校におけるセクシュアリティ教育の発展
　1.4 ヨーロッパにおける様々なセクシュアリティ教育制度
　1.5 グローバルな視点からみるヨーロッパ
　1.6 並行する国際的なセクシュアリティ教育の取組み
２．セクシュアリティ、性的健康、セクシュアリティ教育――定義と概念
３．セクシュアリティ教育の原理
　3.1 セクシュアリティ教育の要点
　3.2 子どもの心理性的発達
４．セクシュアリティ教育の原則と求める結果
５．セクシュアリティ教育の対象集団とパートナー
６．セクシュアリティ教育の実施方法―一般的枠組みと基本的な要求
　6.1 セクシュアリティ教育の７つの特色
　6.2 教育者の能力

Part ２：セクシュアリティ教育のマトリクス
１．マトリクスへの導入
　1.1 マトリクスの背景
　1.2 サポート構造の重要性
　1.3 なぜ４歳前にセクシュアリティ教育を始めるべきなのか
　1.4 マトリクスの読み方
２．マトリクス

図1　マトリクスの一部（12 歳～ 15 歳）

12-15	Information Give information about	Skills Enable teenagers to	Attitudes Help teenagers to develop
The human body and human development	■ body knowledge, body image and body modification (female genital mutilation, circumcision, hymen and hymen repair, anorexia, bulimia, piercing, tattoos) ■ menstrual cycle; secondary sexual body characteristics, their function in men and women and accompanying feelings • *beauty messages in the media; body changes throughout life* • *services where teenagers can go for problems related to these topics*	■ describe how people's feelings about their bodies can affect their health, self-image and behaviour • *come to terms with puberty and resist peer pressure* • *be critical of media messages and beauty industry*	• *critical thinking related to body modification* • *acceptance and appreciation of different body shapes*
Fertility and reproduction	■ the impact of (young) motherhood and fatherhood (meaning of raising children – family planning, career planning, contraception, decision-making and care in case of unintended pregnancy) ■ information about contraceptive services ■ ineffective contraception and its causes (use of alcohol, side-effects, forgetfulness, gender inequality, etc.) ■ pregnancy (also in same-sex relationships) and infertility ■ facts and myths (reliability, advantages and disadvantages) related to various contraceptives (including emergency contraception)	■ recognize the signs and symptoms of pregnancy ■ obtain contraception from an appropriate place, e.g. by visiting a health professional ■ make a conscious decision to have sexual experiences or not • *communicate about contraception* • *make a conscious choice of contraceptive and use chosen contraceptive effectively*	■ personal attitudes (norms and values) about (young) motherhood and fatherhood, contraception, abortion and adoption ■ a positive attitude towards taking mutual responsibility for contraception
Sexuality	■ role expectations and role behaviour in relation to sexual arousal and gender differences • *gender-identity and sexual orientation, including coming out/ homosexuality* • *how to enjoy sexuality in an appropriate way (taking your time)* • *first sexual experience* • *pleasure, masturbation, orgasm*	■ develop skills in intimate communication and negotiation • *make free and responsible choices after evaluating the consequences, advantages and disadvantages of each possible choice (partners, sexual behaviour)* • *enjoy sexuality in a respectful way* • *differentiate between sexuality in real life and sexuality in the media*	■ the understanding of sexuality as a learning process • *acceptance, respect and understanding of diversity in sexuality and sexual orientation (sex should be mutually consensual, voluntary, equal, age-appropriate, context-appropriate and self-respecting)*
Emotions	■ the difference between friendship, love and lust ■ different emotions, e.g. curiosity, falling in love, ambivalence, insecurity, shame, fear and jealousy	■ express friendship and love in different ways ■ express own needs, wishes and boundaries and respect those of others • *deal with different/conflicting emotions, feelings and desires*	■ acceptance that people feel differently (because of their gender, culture, religion, etc. and their interpretation of these)

Relationships and lifestyles	■ **influence of age, gender, religion and culture** • *different styles of communication (verbal and nonverbal) and how to improve them* • *how to develop and maintain relationships* • *family structure and changes (e.g. single parenthood)* • different kinds of (pleasant and unpleasant) relationships, families and ways of living	■ **address unfairness, discrimination, inequality** ■ express friendship and love in different ways ■ make social contacts, make friends, build and maintain relationships • *communicate own expectations and needs within relationships*	■ **an aspiration to create equal and fulfilling relationships** • *an understanding of the influence of gender, age, religion, culture, etc. on relationships*
Sexuality, health and well-being	■ **body hygiene and self-examination** ■ the prevalence and different types of sexual abuse, how to avoid it and where to get support • *risky (sexual) behaviour and its consequences (alcohol, drugs, peer pressure, bullying, prostitution, media)* • *symptoms, transmission and prevention of STI, including HIV* • *health-care systems and services* • *positive influence of sexuality on health and well-being*	■ **make responsible decisions and well-informed choices (relating to sexual behaviour)** ■ ask for help and support in case of problems • *develop negotiation and communication skills in order to have safe and enjoyable sex* • *refuse or stop unpleasant or unsafe sexual contact* • *obtain and use condoms and contraceptives effectively* • *recognize risky situations and be able to deal with them* • *recognize symptoms of STI*	■ a feeling of mutual responsibility for health and well-being • *a sense of responsibility regarding prevention of STI/HIV* • *a sense of responsibility regarding prevention of unintended pregnancy* • *a sense of responsibility regarding prevention of sexual abuse*
Sexuality and rights	■ sexual rights, *as defined by IPPF and by WAS** • *national laws and regulations (age of consent)*	■ **acknowledge sexual rights for oneself and others** ■ ask for help and information	■ an acceptance of sexual rights for oneself and others
Social and cultural determinants of sexuality (values/norms)	■ influence of peer pressure, media, pornography, (urban) culture, religion, gender, laws and socioeconomic status on sexual decisions, partnership and behaviour	■ **deal with conflicting (inter) personal norms and values in the family and society** ■ acquire media competence and deal with pornography	■ **a personal view of sexuality (being flexible) in a changing society or group**

総体的セクシュアリティ教育：HSE

「総体的セクシュアリティ教育（Holistic Sexuality Education：HSE）」という概念は、ヨーロッパ標準のなかで、セクシュアリティ教育の新しい区分として示された。

世界的に、セクシュアリティ教育は、タイプ１：基本的あるいは唯一のものとして結婚前の性交からの節制に焦点をあてる「性的節制のみ（abstinence only）」プログラム、タイプ２：性的節制もひとつの選択肢とし、合わせて避妊法や安全な性交の実践にも注目をする（しばしば「性的節制のみ」に比較して）「包括的セクシュアリティ教育（comprehensive sexuality education：CSE）」の２分類が知られている。HSE は、従来のタイプとは根本理念が異なる新

しいタイプで、個人的、性的な成長発達のより広い視野の中にタイプ２の要素を含むものである。

タイプ１、タイプ２は、いずれも第一に問題の解決や予防に方向付けられ、例えば性交開始年齢の遅延や性的パートナー数の減少などの行動面での「確実な結果を求める」ことに注目するものと解されている。それに対して、HSE は第一に「個人の成長に向けて」セクシュアリティ教育を考えるとされる。誕生から始まり、対象の年齢に適切で、人権に基づくことなどを原則とし、表２のような成果を求めている。

因みに、CSE を用いる場合でも、例えば米国の Sexuality Information and Education Council of the U.S.（SIECUS）は、HSE と同様、領域・内容的にも方法論的にも幅広くセクシュアリティ教育を捉えており[12]、ヨーロッパ標準はそのガイドラインを参考資料のひとつに挙げている。また、CSE という言葉は、ヨーロッパ標準の開発にも関わっている WHO や IPPF も用いている[13)14)]。新しい区分は、CSE に含まれているがタイプ B の説明そのままの Abstinence-plus と呼ばれるものと区別するものであると考えられる。

おわりに

近年、欧州では、経済面を中心に連携が進められてきている。しかし、セクシュアリティ教育に関しては、一部には NGO 活動等を通した連携や協力が行われているものの、言語的な壁が原因となり、情報の発信や交流等が課題となっているという。

多様な価値観が存在し、政治・経済状況にも国や地域差がある欧州で、しかも EU の誕生や ICT の発展等の変化に伴う人々の交流や情報の流通を背景に価値観などがさらに多様化するなかで、新しいセクシュアリティ教育の実現への取組みが始まっている。そのひとつが、欧州全体が共通の概念と目的を持ち、連携、協力して学校におけるセクシュアリティ教育を充実させるためのヨーロッパ標準の開発である。

その方向性は、多くの性的健康問題を抱えながらも決して問題の防止や解決に終始するのではなく、欧州全体の性と生殖の健康と権利の向上にある。多様な考え方や価値観の違いを超えて、人権に基づき展開されるセクシュアリティ教育が注目される。

表２　「総体的セクシュアリティ教育（HSE）」が求める成果

1. セクシュアリティ、多様なライフスタイルと態度、価値観に対して、寛容で、開放的で、責任のある社会環境に貢献する。
2. 性的多様性とジェンダーの違いを尊重し、性的アイデンティティとジェンダー役割に気付く。
3. 自己とそのパートナーに対して、理解を根拠として情報に基づく選択をし、責任をもって行動する能力を付与する。
4. 特にセクシュアリティに関して、人間の身体、その発達と機能について気付き、知識を持つ。
5. 性的な存在として発達で得きること、即ち、感情とニーズを表現すること、快い方法でセクシュアリティを経験すること、自己のジェンダー役割と性的アイデンティティを発達させることを学ぶ。
6. セクシュアリティ、避妊、STI と HIV の予防、性的強制の身体的、認知的、社会的、情緒的、文化的側面についての適切な情報を増やす。
7. セクシュアリティと人間関係のあらゆる側面に対処するのに必要なライフスキルを持つ。
8. 特にセクシュアリティに関する問題や質問がある場合のカウンセリングや医療サービスの提供と入手方法についての情報を持つ。
9. 自己の批判的態度を発達させるために、セクシュアリティ、人権に伴う多様な規範と価値観について思考する。
10. 相互理解と相互のニーズ・境界の尊重のある（性的）人間関係を構築し、平等な人間関係を持つことができる。これは、性的な虐待と暴力の予防に貢献する。
11. セクシュアリティ、情緒、人間関係についてコミュニケーションが取れる、そのために必要な言葉を持つ。

【文献】

1）WHO/EUR, BZgA: Country Papers on Youth Sex Education in Europe, 2006

2）IPPF/EN: A Reference Guide to Policies and Practices in Sexuality Education in Europe, 2006

3）WHO/EUR, BZgA: Standards for Sexuality Education in Europe A framework for policy makers, educational and health authorities and specialists, 2010

4）Candace Currie, et al.: Social determinants of health and well-being among young people: Health Behaviour in School-Aged Children (HBSC) study: international report from the 2009/2010 survey, WHO/EUR, pp.173-183, 2012

5）Gunta Lazdane: Sexual health in the WHO European Region, Entre Nous, 72, p.8-9, WHO/EUR, 2011

6）Evert Ketting, Christine Winkelmann: Sexual Health of Young People in the WHO European Region, Entre Nous, 72, p.12-13, WHO/EUR, 2011

7）Emmauelle Godeau, et al.: A Profile of Young People's Sexual Behaviour: Findings from the Health Behaviour in School-aged Children Study, Entre Nous, 72, p.24-26, WHO/EUR, 2011

8）IPPF/EN: A Guide for Developing Policies on Sexual and Reproductive Health & Rights of Young People in Europe, 2007

9）Hans Oisson: Sexuality education in Sweden–an experience of more than half a century, Choices, pp.7-9, IPPF/EN, 2011

10）WHO/EUR: WHO European Regional Strategy on Sexual and Reproductive Health, 2001

11）WHO/EUR, BZgA: Youth Sex Education in a Multicultural Europe, 2007

12）SIECUS: Guidelines for comprehensive sexuality education, Kindergarten though 12th grade, 2004

13）WHO: Developing sexual health programmes A framework for Action, p.24, 2010

14）IPPF: IPPF Framework for Comprehensive Sexuality Education(CSE), p.6, 2010

日本性教育協会発行の出版物

性教育ハンドブック⑤
『21 世紀の課題＝今こそ、エイズを考える』
池上千寿子著　A5 判・68 ページ 500 円

性教育ハンドブック④
『性教育の歴史を尋ねる～戦前編～』
茂木輝順著　A5 判・92 ページ 500 円

性科学ハンドブック⑫
『腐女子文化のセクシュアリティ』
A5 判・96 ページ 500 円

性科学ハンドブック⑪
『思春期の性衝動～男の子の性を考える～』
A5 判・78 ページ　400 円

性科学ハンドブック⑩
『がん患者・家族のセクシュアリティ』
A5 判・74 ページ　400 円

性科学ハンドブック⑨
『性情報とメディア・リテラシー』
A5 判・80 ページ　300 円

性科学ハンドブック⑧
『江戸のセクシュアリティ＆笑い』
A5 判・64 ページ　400 円

性科学ハンドブック⑦
『セクシュアリティと心理学の最前線』
A5 判・74 ページ　300 円

性科学ハンドブック④
「データ解読：現代のセクシュアリティー」
加藤秀一著 A5 判・84 ページ　300 円

『セクシュアル・ヘルスの推進・行動のための提言』
日本語版監修／松本清一・宮原　忍
B5 判 64 ページ 800 円

※以上在庫のあるものです。

◆日本性教育協会編著の書籍◆

『すぐ授業に使える性教育実践資料集』
日本性教育協会編 / 田能村祐麒監修　発行／小学館
小学校版 B5 判 176 ページ　1,500 円＋税
中学校版 B5 判 224 ページ　1,600 円＋税
高等学校版 B5 判 160 ページ　1,600 円＋税

『「若者の性」白書―第６回・青少年の性行動全国調査報告―』
日本性教育協会編　発行／小学館
定価／ 2,000 円＋税　A5 判 224 ページ

『性教育ハンドブック』『性科学ハンドブック』『セクシュアル・ヘルスの推進・行動のための提言』の購入は、日本性教育協会（FAX03-5800-0478）まで。
『すぐ授業に使える性教育実践資料集』『「若者の性」白書 ―第６回・青少年の性行動全国調査報告―』は、書店でお求め下さい。

北丸雄二の Sexuality Now ニューヨーク リポート

第15回

オバマと北野武に見る時代の潮目

私が渡米した1993年、いまから20年近く前ですがハワイの州最高裁が「同性婚を許さないのは法の下での平等を謳う憲法に違反する」として米国での同性婚問題が初めて公式に表面化しました。けれどその時はいかにも時期尚早――というのも、同性婚以前にそもそも「同性愛」への理解すらまだ十分だとは言えない時代だったのです。「同性愛」はエイズ禍の最中にあり、同性愛者を忌避する風潮は顕著でした。

当時のクリントン政権は後に連邦政府としては同性婚を支持しないという態度を表明します。ハワイ州での同性婚も、その後20年にわたって侃々諤々の議論を重ね、結局は今年、「結婚」ではなく現時点では同性カップルの法的権利のみを保障する「シビル・ユニオン」の形で決着しています。

5月初め、米国大統領として初めて同性婚を支持したオバマのTVインタビューは、同性婚支持に関してはまっすぐに決然と話していて印象的でしたが、一方で自らの支持者の中のキリスト教者たちを慮って言葉が淀む部分も多々ありました。2008年の大統領選で、彼は信仰心の厚いアフリカ系の有権者の95%、ヒスパニック票の65%を獲得して当選しました。その彼らの票を、11月に控える再選選挙でこの同性婚発言によって逃すわけにはいかない。あのインタビューの直後、大統領はさっそくキリスト教保守の福音派の指導者たちに接触して「これは宗教への攻撃ではない」とじかに説明したそうです。

もっとも、ここ最近の世論調査では同性婚支持者はかなり増えています。ある調査では、同性婚の合法化支持は2006年には36%でしたが現在は52%に達する調査もあります。しかもヒスパニック全体でも支持者は過半数、アフリカ系でも2009年は32%だったのがいまは50%に上昇している。特に18～34歳という若者層全体では、同性婚支持率は57%にも達しています。

ちょっと目を離しているうちに米国世論はあれよあれよと同性婚OKに傾いています。15年前、97年3月の調査ではリベラル派の牙城のニューヨークでさえ同性婚賛成派は34%しかいなかったのですから。

ニューヨークに住んでいると友人にゲイの人たちがいる確率が高いのですが、それは日本よりアメリカのほうがゲイが多いというのではなく、ゲイだと公言している人たちが多いという違いに過ぎません。そして大統領もまた、そんな環境でゲイの人たちと多く接することで「進化してきた」。「彼らの、パートナーに対する真剣さ、さらには社会生活全般でも、ときには異性愛の人よりも尊敬に値する生活を送っている人たちがいるという事実に気づき、その人たちがどうして社会的に異なる扱いを受けているのか、自分の娘たちに説明できない」と結論づけたのです。それが今回のオバマ発言でした。

ところでこのニュースを受けて日本では欧米でとても人気のある映画監督である北野武が、自身の情報番組で「同性の結婚を認めると、これ、だんだんいくと今度は動物との結婚を認めると（いうことになる）」「（同性カップルの子どもが）おまえのお母さんはお父さんだと（からかわれる）」と発言しました。これまでならそのままスタジオで同調圧力の笑いの中で受け流されていたでしょうが、今回は違いました。コメンテイターの1人、女優の渡辺えりさんがそれに猛然と反論し、さらにはツイッター上のゲイやレズビアンやその友だちのストレートの人たちもが多数、異議を表明しました。それを受けてジャパン・タイムズが、さらにはAFPやSalon.comなどの欧米のメディアまでがこのコメントを問題視したのです。日本の既存の大手メディアの反応は相変わらず鈍いままでしたが。

オバマ発言は時代の潮目の変化を示しました。でも私にはそれ以上に、北野武のあの発言に世界が敏感に反応したことが、日本がもはや情報鎖国ではないという事実を突きつけた最初の潮目の変化に思えます。

きたまるゆうじ　ニューヨーク在住（19年）ジャーナリスト／作家／元・中日新聞（東京新聞）ニューヨーク支局長。

「ありのままのわたしを生きる」ために

第15回

Ｊさんとの出会い

土肥いつき

京都の公立高校教員。24 時間一人パレード状態の MtF トランスジェンダー。趣味の交流会運営で右往左往する日々を送っている。

最近、大きな声を出すのも聞くのもイヤになってきました。大きな声は、小さな声をかき消してしまいます。でも、わたしはつぶやきこそを聞きたいと思います。だから、わたしも小声でしゃべる今日この頃です。

閑話休題。

担任としてこだわったもうひとつのことは、家庭訪問でした。夏休みには誰もしない「全戸家庭訪問」もしました。わたしにとっては家庭謹慎でさえも、生徒と話をするいい機会でした。「１時間を１回だけより、５分を毎日」と考えて、謹慎期間中、毎日生徒の家に行き、小さな対話を積みあげました。こうしたやり方は、結果的には子どもや保護者の信頼へとつながったようでした。さすがにゴミ捨て当番をサボったことを理由に家庭訪問をした時はあきれられましたが…。

ところで、家庭訪問は、思わぬところでわたしに転機をもたらしました。こんなわたしに興味を持った人がいたのです。それは、事務室で出張旅費の担当をしていたＪさんという女性でした。Ｊさんは、飛び抜けて家庭訪問の件数の多いわたしのことを「いったいどういう人だろう」と思ったようです。一方、わたしは職員室があまり好きではなかったので、よく事務室に遊びに行き、なんとなくＪさんの机の横にあるゴミ箱に座って、他愛もない雑談をしながら、Ｊさんの仕事の邪魔をしていました。

２月中旬、泊まりの出張を翌日に控えたわたしのところに、Ｊさんは小さな紙包を持ってきました。翌日、出張先の部屋で紙包を開くと、それはチョコレートでした。ホテルの一室で、「これは義理か本気か」とさんざん悩んだあげく、とりあえず、Ｊさんの家に電話をしました。結局それは本気のチョコレートだったようでした。わたしは、「本気なんだったら、出張から帰ったら呑みに行こう」と、その場でＪさんを誘いました。それ以降、職場以外の場所でも会うようになり、少しずつ会話も深まっていきました。生い立ちのこと、大学時代のこと、将来のこと、話は尽きませんでした。

翌年度、わたしにとって、もうひとつの転機がありました。６年間住んだアパートを引き払って、校区の部落の中に家を借りることにしたのです。Ｊさんは、その引越しを手伝ってくれました。のちにＪさんは「もしかすると、ここに自分は住むことになるのかもしれないと思った」と、その時のことを話してくれました。

しかしその年の秋頃、わたしは迷っていました。誰にでも人生に一度くらいはモテる時期があるとよく言われますが、まさにそういう時でした。その時Ｊさんを含め、３人の女性の友だちがいました。１人はスキー仲間、１人はキャンプ仲間、そしてＪさんは人権教育の仲間でした。わたしが女性に対して求めていたのは、おそらく「伴侶」ではなく「同志」でした。誰を人生をともに過ごす「同志」にするかで、わたしの人生の方向が決まると思いました。そんなある日、わたしが迷っていることをＪさんが知りました。Ｊさんは激怒しました。わたしはＪさんの「怒り」を聞きながら、Ｊさんこそが「同志」であると直感し、Ｊさんと生きていこうと思いました。それは同時に、自分の根本を人権教育におくという決意でもありました。そしてその年度末、わたしとＪさんは結婚しました。

ところで、わたしはＪさんにも「心の中の箱」のことは言いませんでした。なぜなら、それは日常とは切り離された心の中のことだったからです。そして、結婚を機に女装はやめようと思いました。でも、一人きりになった時、ふと「心の中の箱」の存在を思い出すことがありました。すると、目の前には今まで自分のまわりには決して存在しなかった、同年代の本物の女性の服がたくさんあるのです。思わずそれを着てしまいました。そして、そのことへの罪悪感は、いよいよ「心の中の箱」を心の奥底へと追いやっていきました。

でも、Ｊさんとふたりの生活は、まさに「新婚生活」でした。どこに行くのもふたりでした。まわりからは「きょうだいのように仲がいいね」と言われていました。Ｊさんと一緒に生活をすることで、わたし一人ではつながれなかった人々とつながることができ、できなかったことができるようになりました。そして、翌年１月、１人目の子どもが生まれました。

BOOK GUIDE
今月のブックガイド

「個人的なもの」と想像力

吉澤夏子著
勁草書房
2,940円（税込み）

新しいジェンダー

60年代に起こった第二波フェミニズムは、選挙権が女性にも認められ、憲法でも平等が謳われているにもかかわらず、女性差別が軽減されない状況への異議申し立てだった。結局、男女の関係それ自体に、あるいは家族といった関係にこそ、差別を再生産してやまない構造が保持されているからだとし、運動のスローガンとして使われたのが、有名な、「個人的なことは政治的なことだ」。

しかしそうした「性の政治」が私的領域を覆いつくすようになれば、平等の名のもとにすべては画一的、均質的に解体されてしまい、「個人的なもの」の自由はなくなる。例えば、男女の恋愛も、家父長制による女性差別の一形態として否定されかねないだろう。あるいは、心のなかに想起する空想ですら、政治的に正しいものと正しくないものに分別されるかもしれない。といった危惧が、本書の著者、吉澤夏子の社会学者としてのテーマだったに違いない。この最新の論文集でも、あらゆるものを権力関係の図式に変換しようとする政治的な力と、反対に、女性差別を温存しようとする「家父長的な抑圧の力」の双方に抗い、「個人的なもの」を確保するための議論を展開している。

第一章では、性愛における「自由で対等な関係」とはどのように達成されるものなのかについて、アレントやフーコーを援用して、理論的に論陣を張る。第二章では、白人のキャリアウーマンと有色人種の女性との雇用関係を題材に、どういう条件の下になら、尊厳を失わず他者と役割分業ができるのかを考察する。第三章では、ミスコンなどを例に、美醜にまつわる問題では、どういった表現、関係において人は傷つけ、傷つくのかを、繊細に分析してみせる。

そしてとりわけユニークな議論を提出しているのが、第四章の「やおい論」である。「やおい」とは、女性が圧倒的多数を占めるオタクの一ジャンルであり、原典となる物語（アニメーション、漫画など）や現存する集団（スポーツチームやアイドル・グループ）における男性同士の人間関係の設定を借り、そこに自由に「虚構の『愛の関係』を創出する」表現や消費活動のことを言う。

これまで「やおい」は、現実のジェンダーが抑圧的であるがゆえに女性たちが逃避せざるをえない虚構の世界だ、と解釈されてきた。しかし吉澤は、それは一面にすぎず、「やおい」の本質は別にあるという。前提として、「やおい」も含めオタクたちの感受性が、「虚構を現実とみなしているというより、現実を虚構として甘受している」傾向があり、「やおい」も現実の自分とは別に、「虚構の『愛の関係』に没入することそれ自体に喜びをみいだしている」。つまり、「やおい」の嗜好とは、女性差別ゆえというより、そういう現実以前に存在する虚構への欲望であって、結果として差別からの逃避にもなっていると、見方を逆転させるのだ。

吉澤は、斎藤環（精神科医）の、男性の欲望は所有という原理を持っていて、女性は関係という原理によって主体化されアイデンティティを獲得している、という論に依拠して、「やおい」には「妄想する私の不在」という特徴があるとする。特定のキャラクターに自分を投影するのではなく、関係自体に、物語全体に、「私」は「遍在し溶解し拡散している」。つねに「私」という主体とキャラクターの距離を図っている男性のオタクとはこの点が違うところだ。

そして、女子のこうした多型倒錯的な、言い方を換えれば、豊穣な想像力のなかに、吉澤は、新しいジェンダー、これまでにはありえなかった男女の対等な関係性への契機をみいだそうとしている。「個人的なもの」のなかにある創造にこそ、変革の可能性を賭けるのだ。ここが、同じ反差別の立場にありながら、倫理主義的な禁止に走りがちなフェミニズムとの、大きな違いと言えるだろう。

（作家・伏見憲明）

JASE Information

研究会、研修会等の情報を下記まで、郵送または、Fax03-5800-0478でお寄せください。
〒112-0002　文京区小石川2-3-23春日尚学ビル B1
日本性教育協会「JASE ジャーナル」係

全国性教育研究団体連絡協議会　8月2日(木)13:00～16:55　8月3日(金)9:30～17:00

第42回全国性教育研究大会　第８回中国・四国地区性教育研究大会

テーマ　「さらに広げよう！性教育の視野を」

内　容　８月２日：講演「性同一性障害の理解に向けて」中塚幹也（岡山大学大学院）、「Sexual Minorities, Homosexuality, Transgender and Intersexuality」ミルトン・ダイアモンド（ハワイ大学）、ほか。
８月３日：分科会（小学校、中学校ほか）、ワークショップ、シンポジウム、ほか。

会　場　島根県松江市　くにびきメッセ（島根県立産業交流会館）

問い合わせ　参加費／一般 6,000 円、学生 4,000 円、１日参加 3,000 円（学生 2,000 円）。定員／ 300 名。
主　催／全国性教育研究団体連絡協議会、中国・四国地区性教育研究団体連絡協議会。協　賛／日本性教育協会。
問合せ先／〒 706-0021　岡山県玉野市和田 1-9-11　松江大会事務局　TEL & FAX　0863-81-6483

第 12 回アジア・オセアニア性科学学会

◆テーマ◆「アジア・オセアニアにおける性の健康の普及増進」

日　時　８月２日（木）～５日（日）　　**会　場**　島根県松江市　くにびきメッセ（島根県立産業交流会館）

日程と主なプログラム　公用語：英語（一部日本語）

８月２日：特別講演（M.Diamond）、ワークショップ①②、公開講座 A（村瀬幸浩、石川哲也、小長井春雄、穴倉翠）
８月３日：開会式　基調講演①（K.Park）、会長講演（大会会長・大川玲子）、シンポジウム①②、ワークショップ③、ほか
８月４日：基調講演②③、シンポジウム③～⑨、一般演題（口演・ポスター）、公開講座 B（森岡正博）
８月５日：シンポジウム⑩～⑫　閉会式

問い合わせ　問合せ先／組織委員会事務局／ TEL：080-1242-5025　E-mail：info@12aocs.jp　URL：http//www.12aocs.jp
共　　催／第 32 回日本性科学学会・2012 年度全性連第 42 回全国性教育研究大会

第12回　思春期ピアカウンセリング・コーディネーター養成セミナー

6/30（土）9：45～17：15
～
7/1（日）9：00～16：30

【内　容】１日目：講演「思春期保健の現状と課題」「思春期健康教育の質的転換への取り組み」、ほか。講師：髙村寿子（自治医科大学）、ほか。
２日目：実習「思春期ピアカウンセリング実践展開に向けて～思春期ピアカウンセリング講座開設のための連携づくりと企画書作成」、ほか。

【会　場】保健会館新館地下１階多目的ホール
（東京都新宿区市谷田町１－10）

【問い合せ先等】参加費／ 21,000 円（税込）。定　員／ 30 名。
問合せ先／一般社団法人日本家族計画協会　研修課
〒 162-0843　東京都新宿区市谷田町１－ 10 保健会館新館
TEL　03-3269-4785　FAX　03-3267-2658　URL　http://www.jfpa.or.jp/

7月27日（金）～29日（日）

平成 24 年度　第 63 回・64 回 思春期保健セミナーコースⅠ（総論編）

内　容　27 日「思春期リプロ・ヘルス概論」「セクシュアリティ・性の健康・性の権利」「思春期女子の生理」「思春期の心理Ⅰ」。28 日「思春期男子の生理」「思期の問題行動」「思春期のヘルスプロモーションとエンパワーメント」「思春期と乳幼児期」「思春期と家庭社会」。29 日「思春期と学校性教育」「精神医学の基礎知識」、ほか。

会　場　第63 回東京会場：TKP 赤坂ツインタワーカンファレンスセンター（東京都港区赤坂２－17－22）
第64 回大阪会場：TKP 大阪梅田ビジネスセンター（大阪市福島区福島 5－4－21）

参加費・問い合わせ
参加費／東京会場：31,500 円（税込）、大阪会場（中継）21,000 円（税込）。定員／東京会場:250 名、大阪会場 100 名。
問合せ先／一般社団法人日本家族計画協会　研修課
TEL　03-3269-4785　　FAX　03-3267-2658

8/6（月）
18：00〜21：00

関西性教育研修セミナー 2012 夏
「性の教育とアドボカシー」

講　師：Rosemary Coates（豪・カーティン大学／WAS 会長）、Matt Tilley（豪・カーティン大学）、Sam Winter（香港大学／Trans-Asia 主宰）、Alain Giami（仏・国立衛生医学研究所／ユネスコチェア「性の健康と人権」ディレクター）、Elizabeth Riley（豪・PeopleSmart Counseling）、Milton Diamond（米・ハワイ大学）他、交渉中

参加費：1,000 円（懇親会費用として）　　定　員：50 名

8月2日〜5日に松江で開催される AOCS（アジア・オセアニア性科学学会）に出席するために来日する専門家を大阪にお招きし、各国における性の教育とアドボカシー（権利擁護）の取り組み状況についてご報告いただきます。講師は日本国内で性教育や HIV／AIDS、性的マイノリティの権利擁護運動などに取り組むみなさんとのざっくばらんな交流を望んでおり、懇親会を兼ねた内容を企画しました。平日の遅い時間ではありますが、みなさま奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

【会　場】大阪府立大学中之島サテライト2F 講義室（大阪市北区中之島 1 丁目 2 番 10 号）

【主　催】関西性教育研修セミナー実行委員会
大阪府立大学「子育て教育系キャリア・コラボ力育成」
【協　賛】日本性教育協会
【後　援】関西エイズ連絡協議会（KAC）

【問い合せ先】
higashi@sw.osakafu-u.ac.jp（ご返事は必ずいたします。ただし携帯メールの場合、こちらからの返事が受信拒否されることがありますので、あらかじめご了承下さい。）

9/9（日）
10：00〜16：30

第 3 回世界性の健康デー東京大会　東京性教育研修セミナー 2012 夏
「感性と性感の幸せな関係」

内　容　シンポジウム「性のヘルスプロモーション円卓会議」ファシリテーター：渡會睦子（東京医療保健大学）、トークセッション「感性と性感の幸せな関係」大川玲子×水嶋かおりん（独立風俗嬢兼風俗嬢講師／メイクラブアドバイザー）、「グッズから考える性の健康」ローション博士・OL 桃子ほか、記念ポスター展示、ミニワーク、ブース出展ほか。

世界性の健康デー（World Sexual health Day：WSHD）は「性の健康」を改めて考えて推進する日です。2010 年に世界性の健康学会（World Association for Sexual Health：WAS）が9月4日と制定しました。日本でも世界と連動して 2010 年から記念イベントを開催しています。今年のＷＡＳ共通テーマは「性の健康――多様性に富むこの世を生きるあらゆる人々に――IN A DIVERSE WORLDS SEXUAL HEALTH FOR ALL」です。東京大会メッセージは、「感性と性感の幸せな関係」としました。性の健康のためにはココロで感じる感性と、カラダで感じる性感のバランスが大事です。様々な立場の大人が性の健康に関わる様々な側面から性の多様性を語り、若者を対象に性のヘルスプロモーションを図ります。

会　場　ルークホール（持田製薬株式会社本社ビル）（JR 四谷駅徒歩５分）　※開場／ 10：00

定員・参加費・問い合わせ

参加費／一般 1,000 円　　対　象／18 歳以上（お子さん連れ可）
主　催／世界性の健康デー　東京大会実行委員会事務局　　協　賛／日本性教育協会
問合せ先／世界性の健康デー　東京大会実行委員会事務局　　※会場に関するお問い合わせ等含め、すべてこちらにご連絡下さい。
〒 150-0002　東京都渋谷区渋谷 1-8-3　TOC 第 1 ビル 8 F　Link-R 内　実行委員長：早乙女智子／事務局長：柳田正芳
TEL　03-6427-3658　　FAX　03-6427-4021　　E-mail　info@wshd.jp　　URL　http://tokyo.wshd.jp